



左より、デイヴィッド・ニクソン(撮影:リチャード・モラン)、ベルトラン・ダ(ジャン=リュック・タンゲ)、アンヘル・コレラ(マヌエル・デ・ロス・ガラネス)、カレン・ケイン(ブルース・ジンガー)、クルツィストフ・パストール(アンジェラ・スターリング)、ヘンリー・オギーク

オーディションを受ける皆さんへ——芸術監督からのアドバイス

オーディションのシーズンが近づいてきました。ダンス・ヨーロッパでは、6人の著名な芸術監督に、オーディションを受けるダンサーにどのような資質を求めるのかをうかがいました。まず、ノーザン・バレエ・シアターのデイヴィッド・ニクソンは、「一味違ったダンサーがほしいですね——舞台の上で、ユニークな芸術家に進化できる”何か”を持った人が。もちろん、しっかりした技術や音楽性も必要ですが、その上で、変化に対応できる開かれた心と、受け入れようとする姿勢がほしい。音楽から全く外れていたり、癖が強すぎたりする人とは、一緒に仕事をしようという気持ちになれませんね。」

ポーランド国立バレエのクルツィストフ・パストールが探しているのは、「いい足や膝をしているなど、外見上の一定の条件を満たすダンサー。でも古典バレエはレパートリーの一部でしかないですから、それだけでなく、動ける人を求めています。身体条件はチェックしますが、古典とコンテンポラリー両方の動きの質も大切です。新しいことをどれくらい早く身につけられるかも見ますね。これは知性のようなものですから。こうして絞り込んだ後で、必ず面接をします。候補者の顔を見て、話して、じかに接してみたいから。その人がどれだけ真剣か知りたいんです。脚が高く上がっても、それほど重要ではありません。それは単に、脚にエネルギーがあるというだけですだからね。私が見たいのは、”語る身体”なんです。もちろん応募写真は見ますし、どんな教育を受けてきたか書類をチェックします。でも、そうしてふるいにかけるのも、オーディションを始めてわずか5分で、『ありがとう、どうぞお引き取りください』と言わなくて済むため。いわば彼らを尊重すればこそなのです。」

バレエ・デュ・ランのベルトラン・ダは、「完璧なクラシック・ダンサーなど求めていません。そんなものは、面白くもなんともないですからね。私は技術面にはそれほど関心がなくて、むしろどんな風に身体を動かすかに注目します。うちのカンパニーではネオ・クラシカルからコンテンポラリーまで異なったタイプの作品を上演していますが、志望者にはレパートリー作品についてのワークショップを受けてもらう。時間があれば、インプロヴィゼーションにも出してもらいます。そしてカンパニー・クラスで自分のレパートリーを何か踊ってもらい、それを見て採否を決定します。オーディションを受ける人への私からのアドバイスは、自分の限界以上のことをしようと思わないで、ということ。ありのままの自分を見せてください。ピルエットを失敗しようが、

そんなことはどうでもいい。あなたがどんな風に踊るのかを見たいんです。信じられないほどの技術で私の関心を引こうと思ったりしないこと。心で踊ってください。」

一方、去年コレラ・バレエ・カスティリーヤ・イ・レオンを立ち上げたアンヘル・コレラは、「まず身体条件を見ます。プロポーションはいいか、腕は、足は、脚はといった具合に。でも、すばらしい体型に恵まれていてバーで目立っていた人が、いざセンターに出て踊る段になってもそのままいいとは限らないですね。僕が重視するのは、調和のある動きです。回転や跳躍が得意でも、身体の動かし方がまずければ、よいダンサーとはいえません。そして、何より大切なのは情熱です。音楽性が欠けているのもだめです。僕は、ダンサーが音楽的じゃないとキレそうになってしまうし、怠惰なダンサーにも耐えられません。一瞬たりとも気を緩められないのが、ダンサーという職業なんです。」

そしてナショナル・バレエ・オヴ・カナダのカレン・ケインが求めるのは、「音楽性があり、身体条件がよく、きちんとした教育を受けてきたダンサーです。特別な存在感や、知性や、ダンサーという職業に対する敬意と愛が明らかに感じられる人には、惹かれますね。プロ意識もひじょうに大切な資質です。態度が気になったり、体重管理に問題があったり、正当な教育を受けていない人は対象外。いろんなタイプのダンサーがほしいと思っていますが、これは譲れないといういくつかの要件があります。それらを満たし、踊れるダンサーであれば、どんなタイプの体型かはさほど問題にしません。ただ、うちのカンパニーには背の高いダンサーが多いのです。例外は常にありえますが、男性なら178センチ、女性なら163センチ以上が望ましいですね。」

そして自身のダンス・カンパニーを率いるヘンリー・オギークは、「僕が見るのは、力強さと、どれくらい適応力があるか。ダンサーとしての将来性をチェックするだけでなく、もう少し踏み込んで、僕自身が“身体的・創造的・感情的知性”と呼んでいるものを持っているかどうかを見ます。カンパニーのメンバーを採用するというのは、完璧な人材を揃えるということではなくて、監督とダンサーたちが互いに学びあい、ちょっとした神秘を発見していく過程を共有できる人を探すこと。うちに必要なのは、いつも手をつないでおいてあげなくてはいけない人ではなく、自分で決定できるダンサーです。」